

G-エッジ



Presented by

◀ 乱らんまん 満 ▶

インセクト パニック Insect Panic

～ 異界生物に寄生・托卵されるヒト科メス～

GENESYS INC.

©RANMAN

G-INT

202X年

世界紛争の絶えぬ
日々の中でもそれは
より一層の緊迫感を
持って報じられた

地球外生命体による
侵略が赤道直下の
無人島を拠点に
始まっているとゆう

信じがたいニュース

それまで映画や
漫画の中でしか
見なかった文字が

ひとたび報道に
出るや否や……
視聴者投稿

外宇宙生命体の侵略か

すぐさまそれは
身近な脅威となり

彼らに強襲
されていった

人類は争う
すべもなく

彼らに襲われた
とある女性の

非業なる記録

これは

Presented by

◀乱らんまん満▶



あ...あ...あ...

しゅあああああ!!

あなただけだ!!

インセクト

パニック

Insect Panic

～異界生物に寄生・托卵されるヒト科メス～
Presented by 乱らんまん満

抵抗力を失った
被験者は徐々に
興奮し始め

毒針は一旦
抜かれるが
本当に怖いのは
ここからだ

体温・脈拍共に
上昇しここで
死亡しなかった
者だけが

母体として
開発される

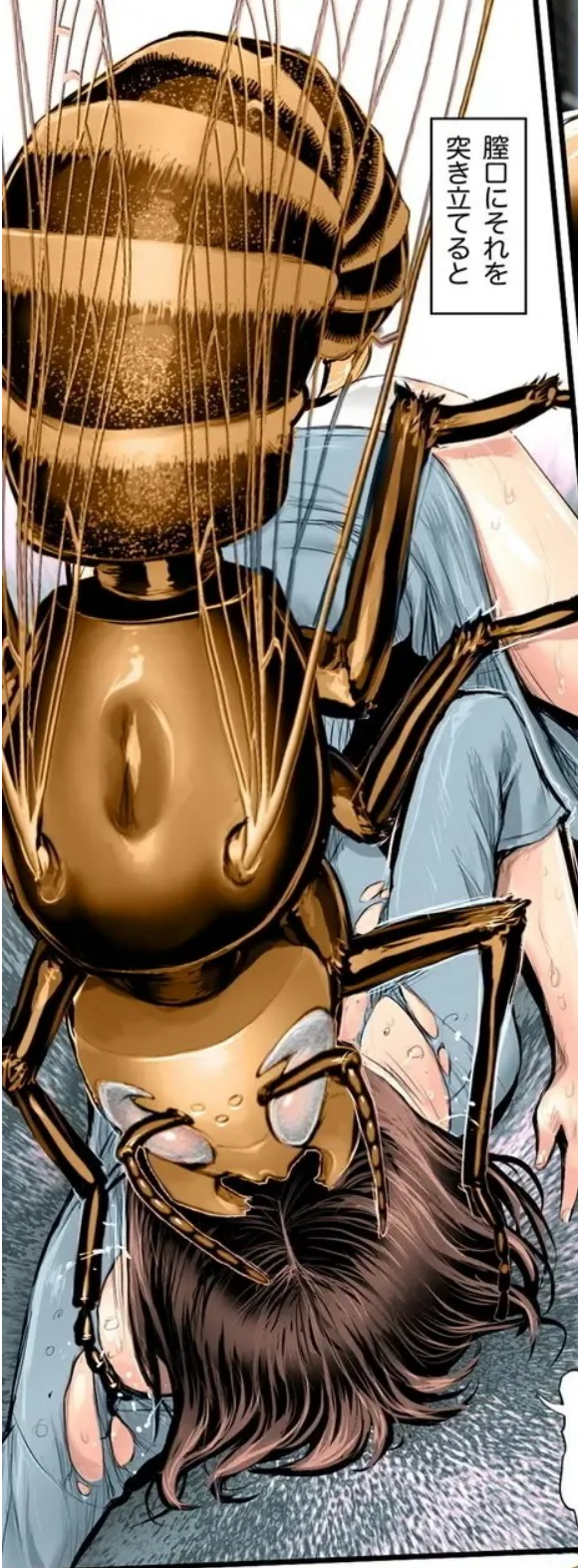
毒が全身に回ると
筋肉はすべて弛緩し
痙攣し始める

彼らはその
独特な器官
を駆使して

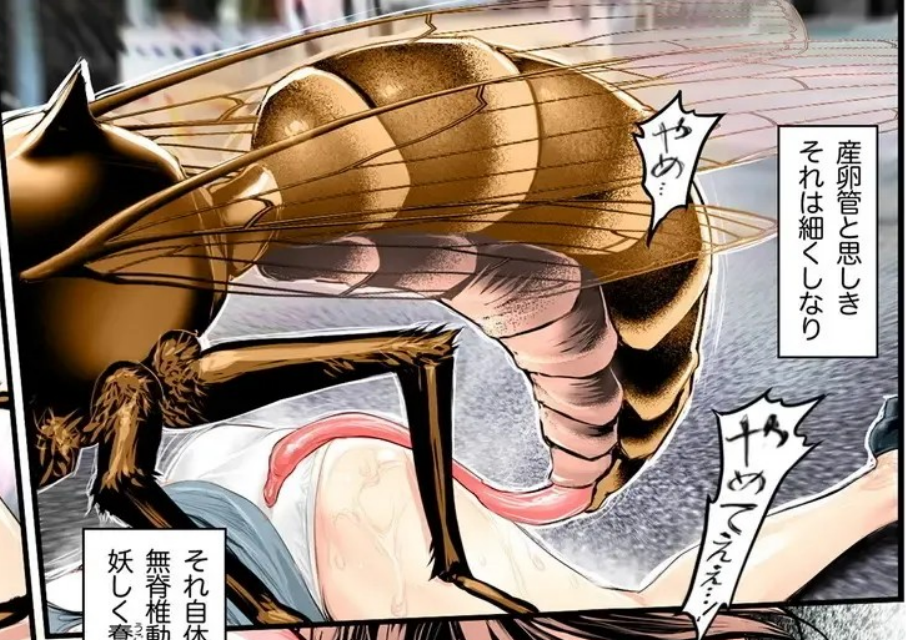
被験者の
フェロモンを
誘発する

その匂いを
察知して
彼らの毒針も
徐々に変形
してゆく





膣口にそれを
突き立てると



産卵管と思いき
それは細くしなり

やめ

やめ

それ自体が固有の
無脊椎動物の様に
妖しく蠢く代物で

始めは被験者の
外性器に滑りを
擦り付けるが



ああ!!

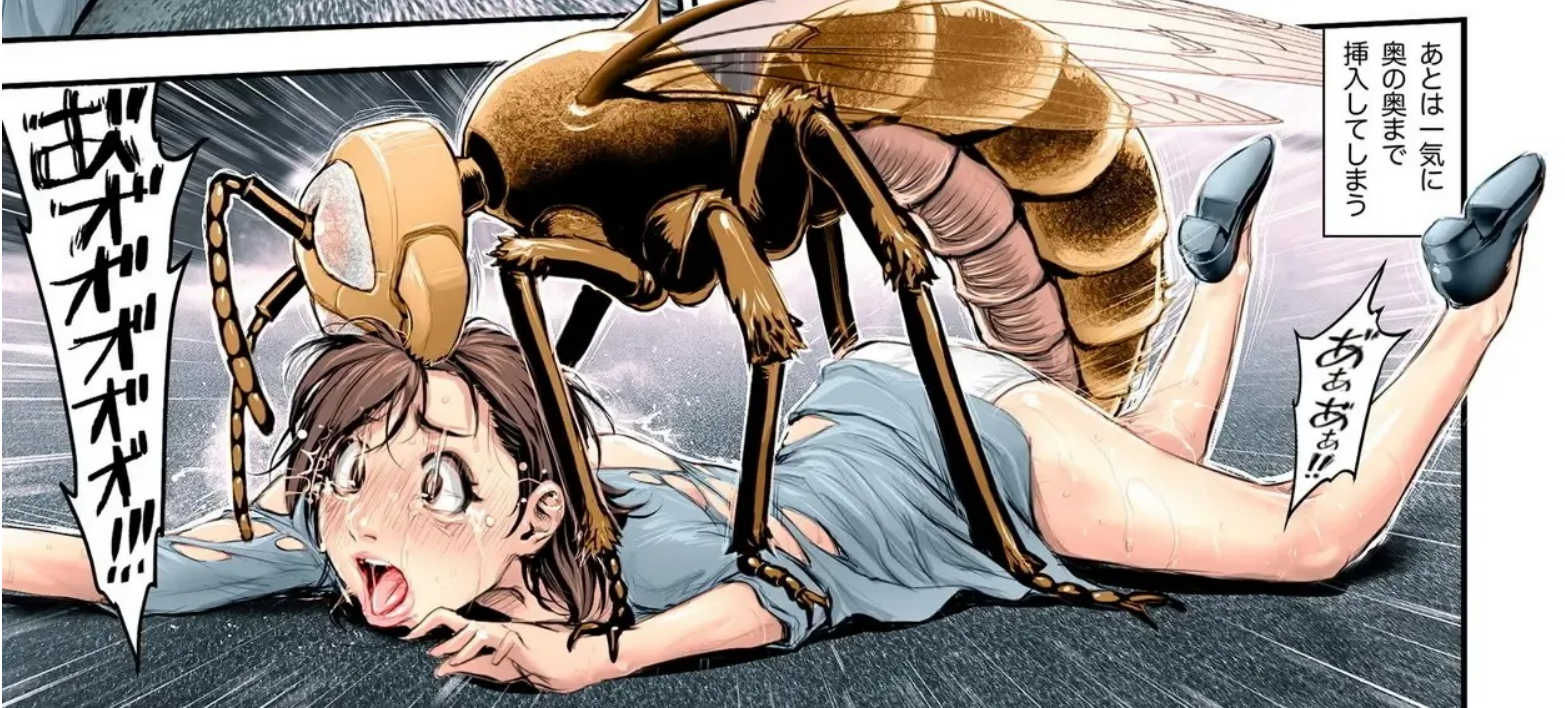
イヤッ

ひとたび
四股へと
当てがい

だ...
だれかあ!!



あ...



あとは一気に
奥の奥まで
挿入してしまう

ああああ!!

オオオオオ!!!

それでいて彼らは
激しく律動する
でもなく

は

は

は

は

は

は

は

産卵管の
針の細さは
そのための
もので

彼らは宿主の
呼吸に合わせて
いとも簡単に

まただ
ゆづり

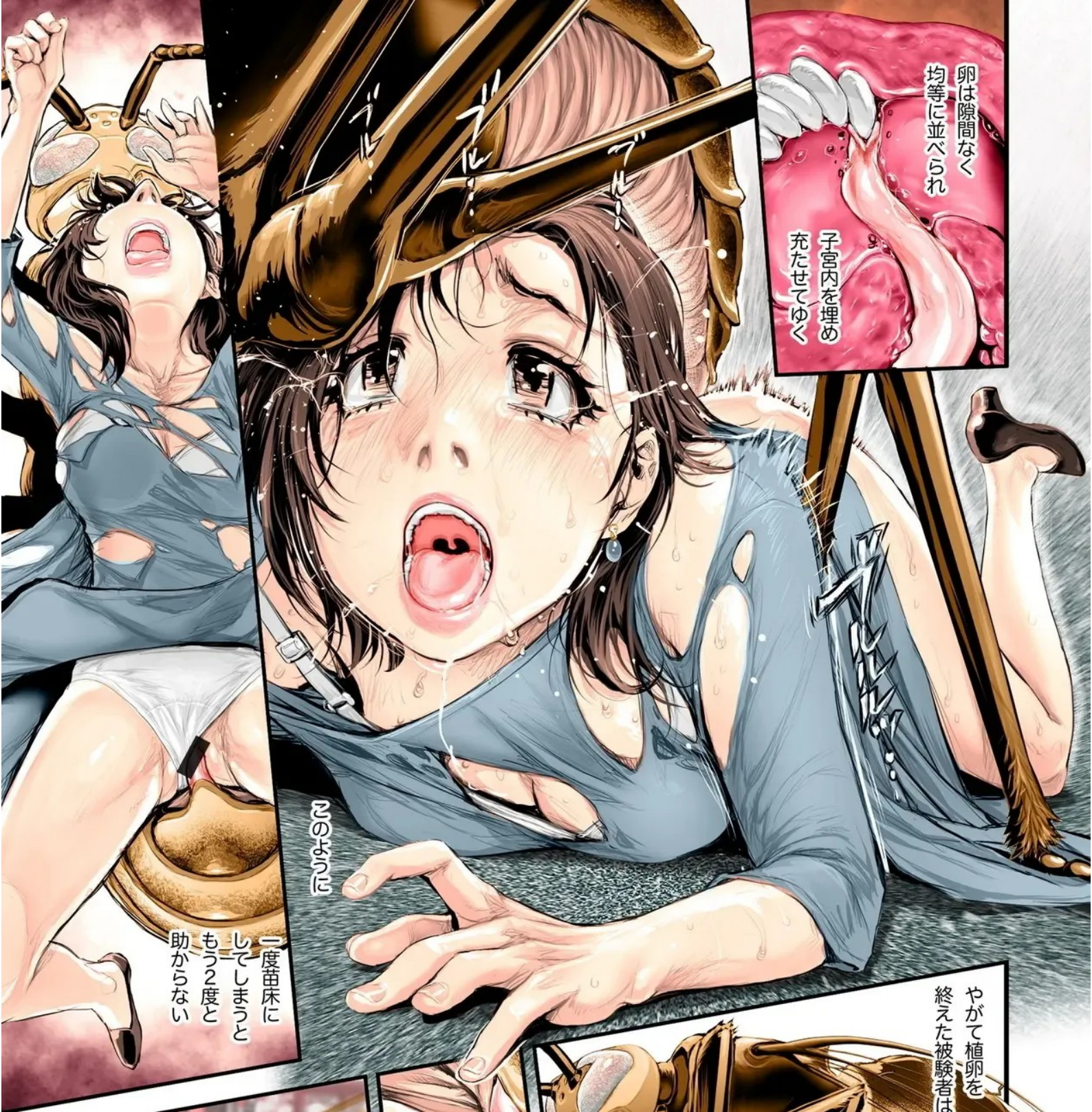
より深い所への
侵入を伺う

胎内深層部を
制圧ののち

胎盤の奥から
順序よく

卵を産み
付けてゆく

カハハ...



卵は隙間なく
均等に並べられ

子宮内を埋め
充たせてゆく

このまま

一度苗床に
してしまつと
もう2度と
助からない

やがて植卵を
終えた被験者は



ゴビゴビ...

我々はこの先にある
彼らの生態を追った



遠くの巢へと
運はれてゆく

被験者を持ち去る
この未確認生物

その姿形から
通称BBと
呼ばれている

…この
化け物は

種の繁栄に
ヒトの雌の
子宮を利用し
植卵ののち

遠く南方の
巣穴へと持ち帰り
そこで更なる
托卵活動へと
移行させる

昼限定の活動から
推測するに

彼らは有視界行動を
取っていると思われ

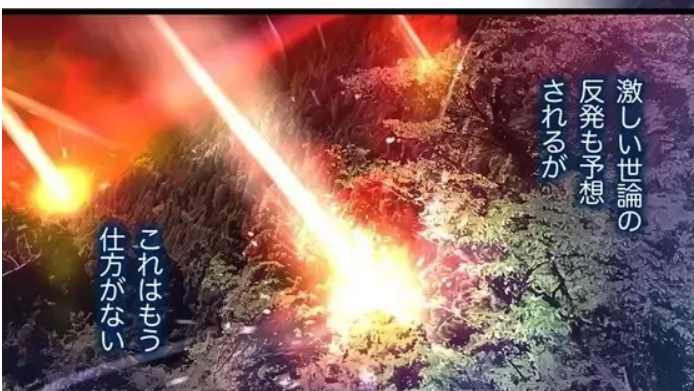
明け方に活動し
日没には獲物を
持ち帰っている
ものと考えられる



しかし奪還は
極めて困難であり

背水の
陣である

これが
人類存亡の
可能性を秘めた
唯一の選択だ



激しい世論の
反発も予想
されるが

これはもう
仕方がない



これらの事象から
我々の打つ手は
夜間強襲玉砕
しかない

だがそれは
同時に：

拐^{さら}われた者達の
命を犠牲にして
しむ行為に
他ならない



ドローンを巢に
忍ばせる事に成功

より詳細で残忍な
彼らの繁殖行動を
知る事ができた



先の攻撃の裏で

そして
我々は



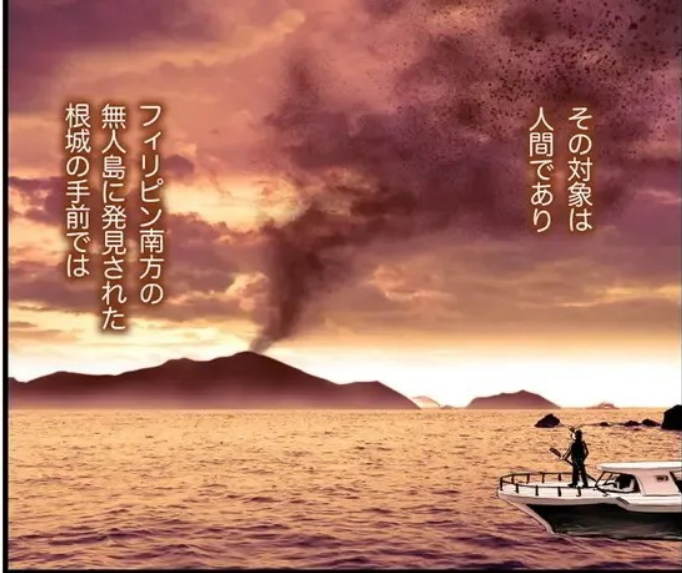
彼らの数は
我々の防衛能力を
遥かに上回ってる

残されたチャンスは
もう決して多くはい



近くに住む
島民男性の

多数の被害が
確認されている



その対象は
人間であり

フィリピン南方の
無人島に発見された
根城の手前では



繁殖活動のため
彼らは女性だけを
根城に連れ帰り

一人ずつ狭い
巣穴に入れ...



いわゆる寄生蜂に
似てはいるが



彼らの姿や行動は
イモムシなどに
托卵させる...



蜜液にたっぶり
浸らせた地盤に
着床させる

蜜液が長い
時間をかけ
繊維質を
溶かしてゆき

.....



.....

.....

着床した被験者は
身動きを封じられ
巣と一体化する

私…いま
どうなっ
ているの？

あなた…
ゆるして
わたし
このまま

死ぬの？

彼らは両性具有で
ありながら自らの
リスク回避に

人の雌^{メス}を
利用する

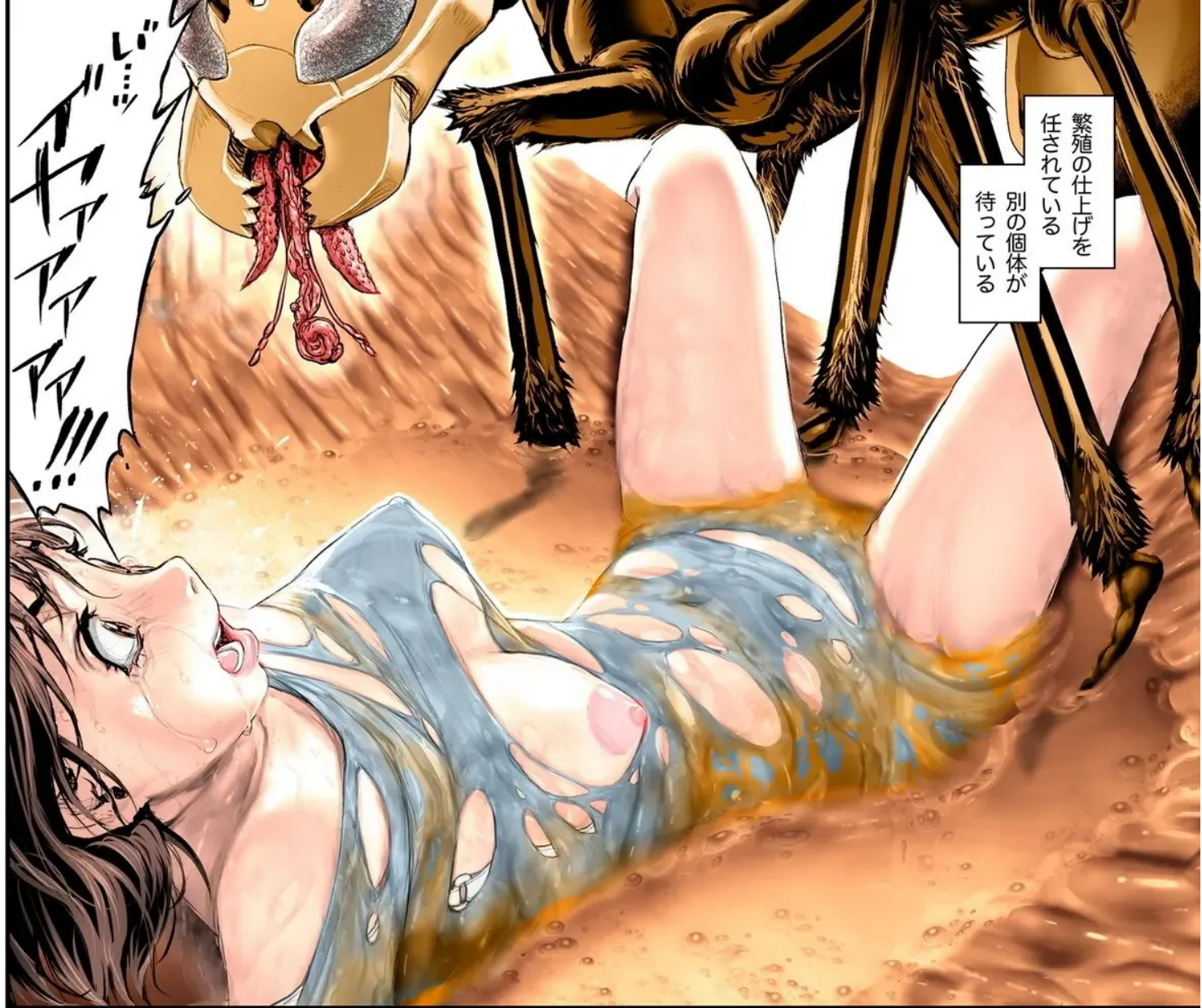
ああ
おなか
すいた

こんな事に
なるのなら
ちゃんと

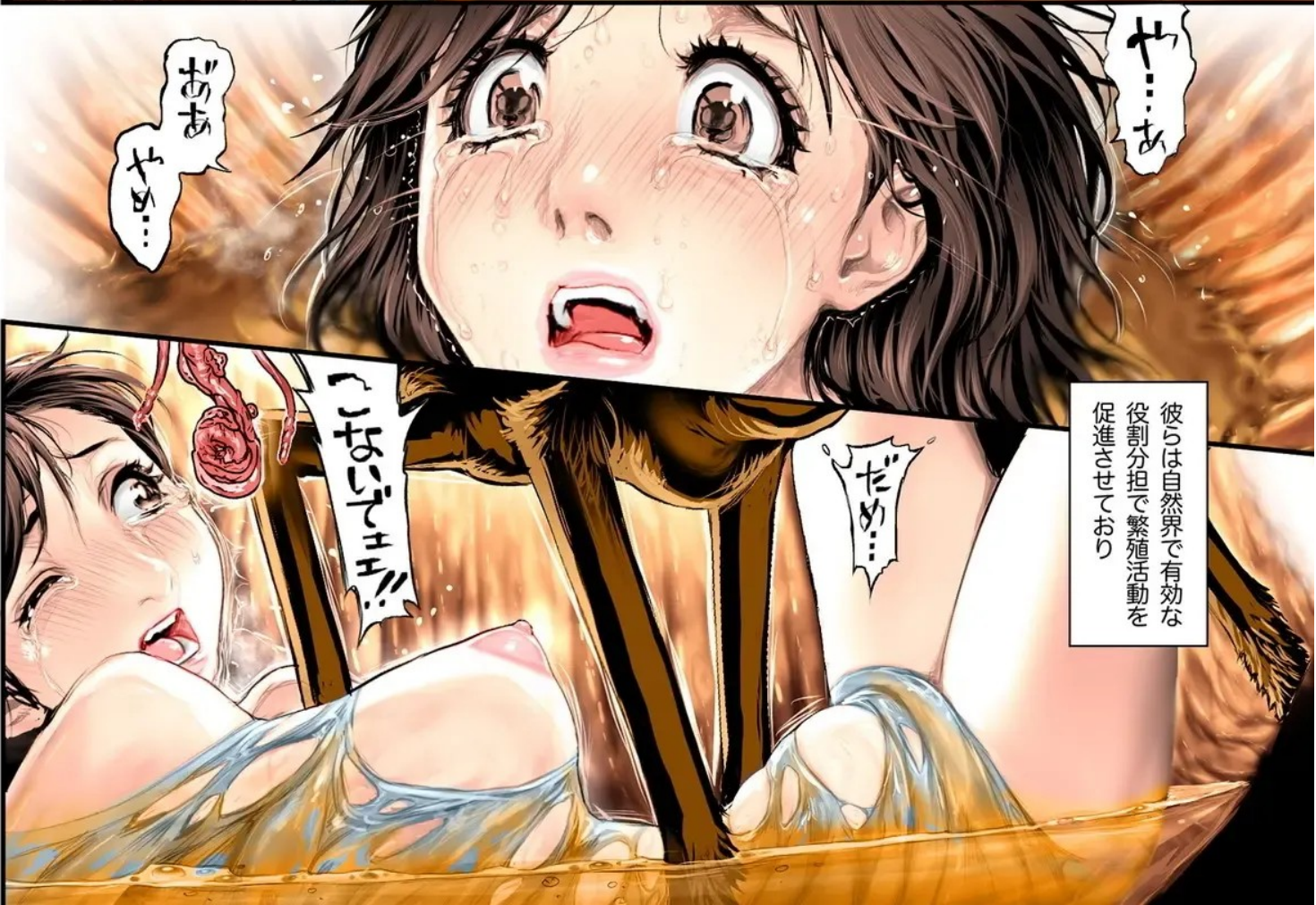
子作りして
おくんだった

そして
そこには





繁殖の仕上げを
任されている
別の個体が
待っている

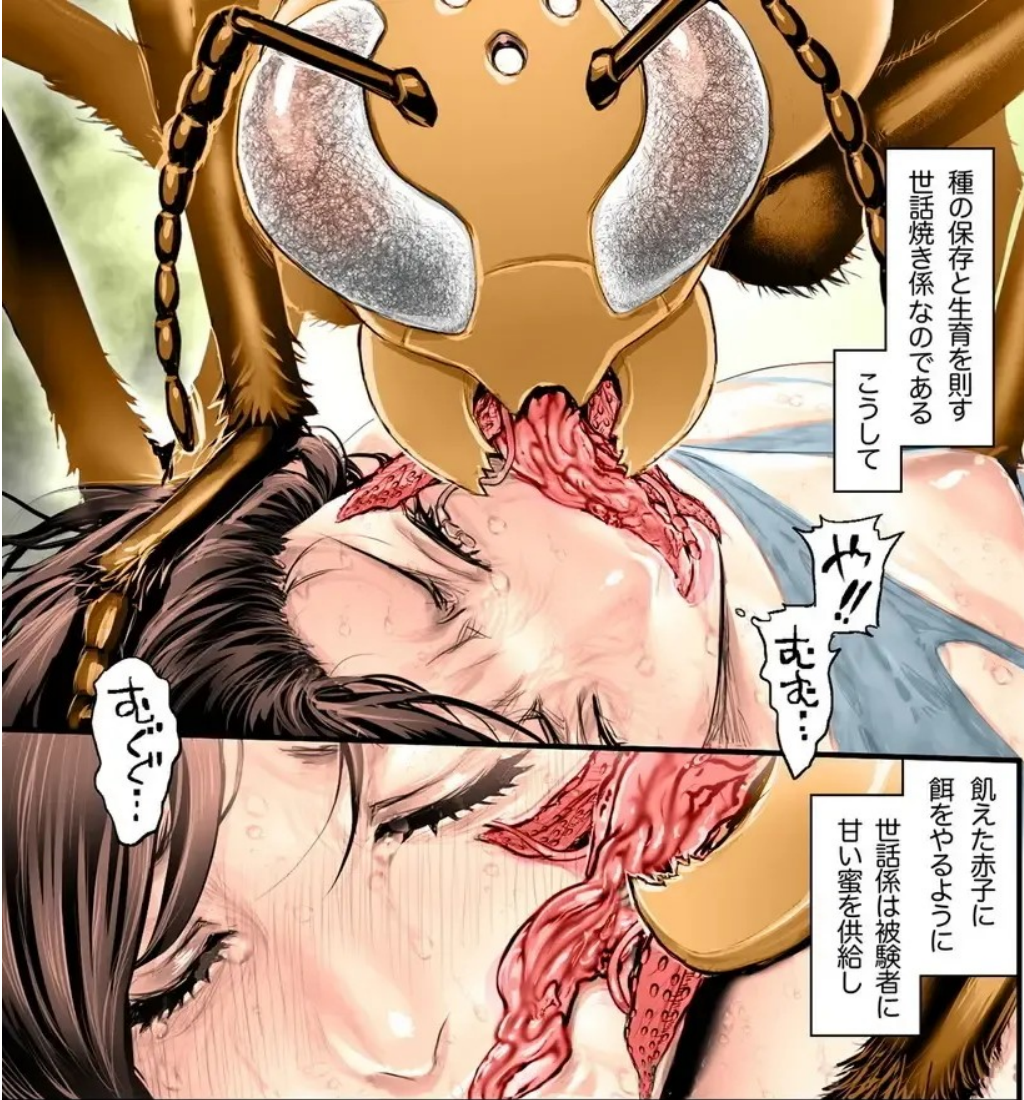


彼らは自然界で有効な
役割分担で繁殖活動を
促進させており

だめ…

なにが…

ああ
ヤス…



種の保存と生育を則す
世話焼き係なのである

こうして

や!!
むむ...

飢えた赤子に
餌をやるように
世話係は被験者に
甘い蜜を供給し

あぐ...



先の個体が
種を植え運ぶ
遊撃隊なら

この個体は



んむー...
あぐ...

ヒトの雌を女王蜂の
様な存在に変え

ん...ん...
ん...

グワ...

グワ...

少しでも長い間
寄生し続けるため

生かさず殺さず
蜜の毒で酩酊させ
末期の免疫不全に
陥らせるのだ

これは後の過酷な
繁殖活動に備えた
大切な体力維持に
欠かせない

と同時に

んんんんんん
もー...

ンク...
ンバ...

空腹の中で供給される
養分を彼女は自らの意志で
拒むことができない

んんんんんん

この個体を持つ
蜜液の成分が

被験体の脳下垂体に
ある種の作用で
思考・判断力を奪つ

幻覚作用をもたらせ
ていると考えられ

ゲホッ
ぶはアア
ケホケホ

ー...な
なにこれ?

我々はこれを

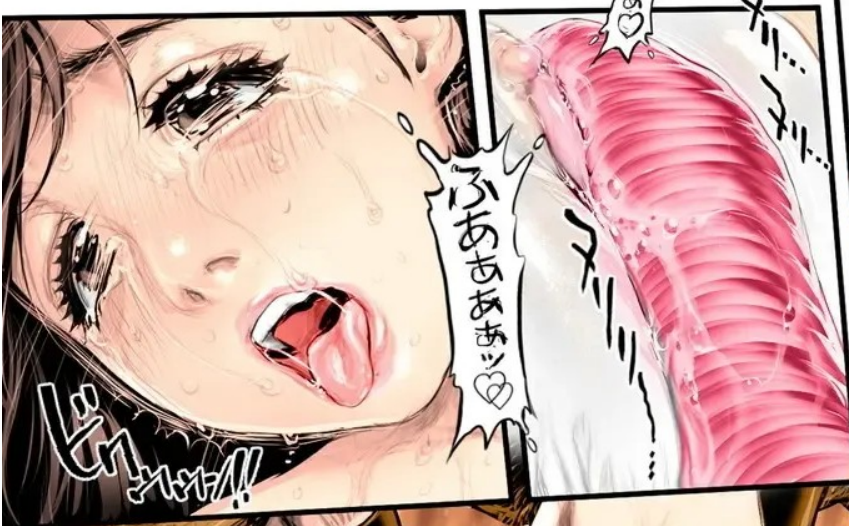
ハニートラップ現象と
仮称・注視し続けた

マ...マ...マ...

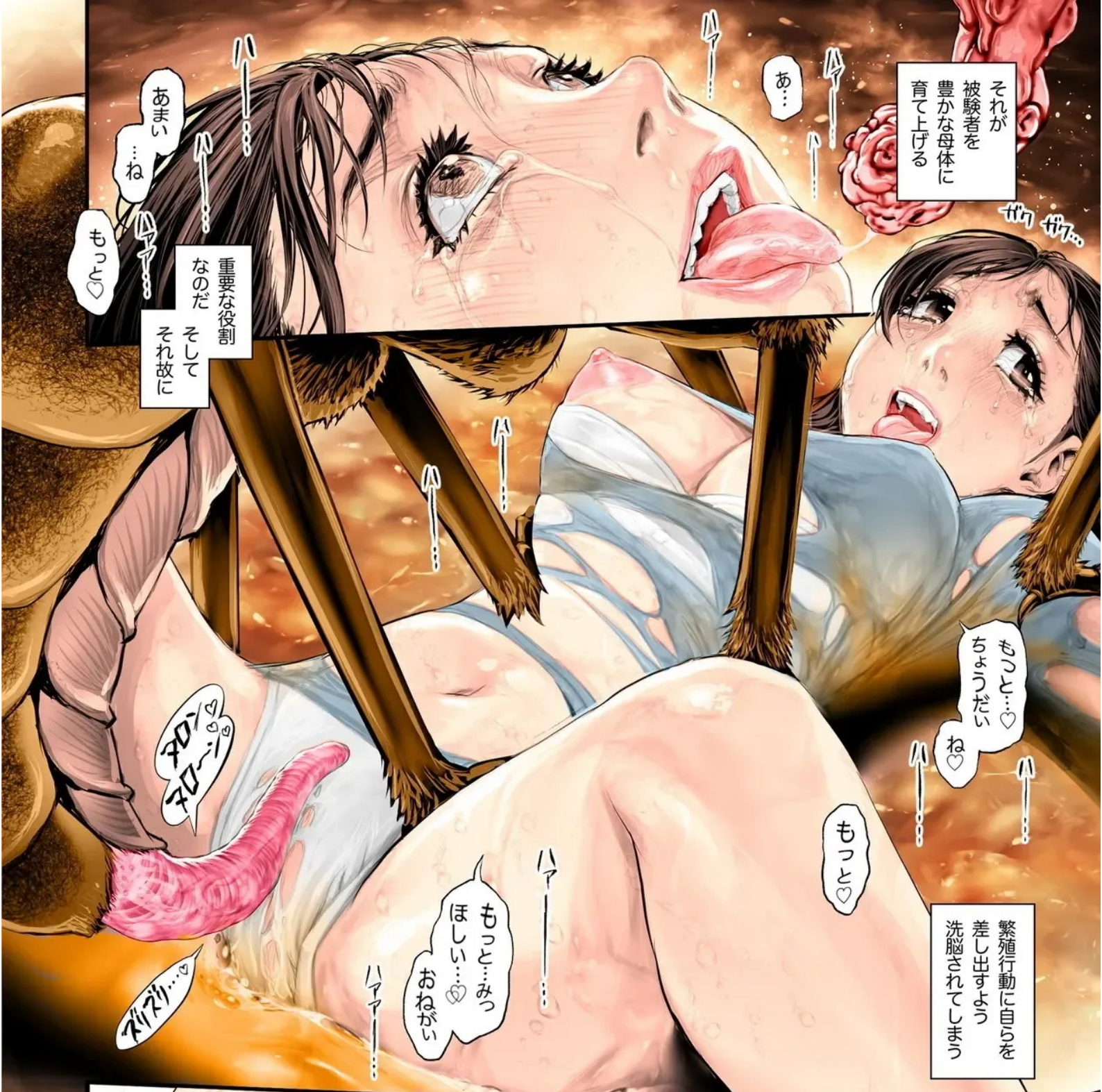
ドクン...
ドクン...
ドクン...

からだか...
あつい?!

ハア...
ハア...



非常に執拗な
愛撫と交配を
繰り返す



それが
被験者を
豊かな母体
に
育て上げる

あ…

あまい
…ね
もっと♡

重要な役割
なのだ
そして
それ故に

もっと…♡
ちようだい
ね♡

もっと♡

もっと…みっ
ほしい…♡
おねがい

繁殖行動に自らを
差し出すよう
洗脳されてしまっ

アハハハ♡
アハハハ♡

ズズズ…♡



そ…
それ♡

あ♡
ハアア

洗脳は
痛覚と味覚の
判断を鈍らせ

ふ…♡
ふ…♡

同じ甘美へと
変えてしまったため

イ…♡
イ…♡
イ…♡

被験者は
再度…

呆気なく侵入を
許してしまう

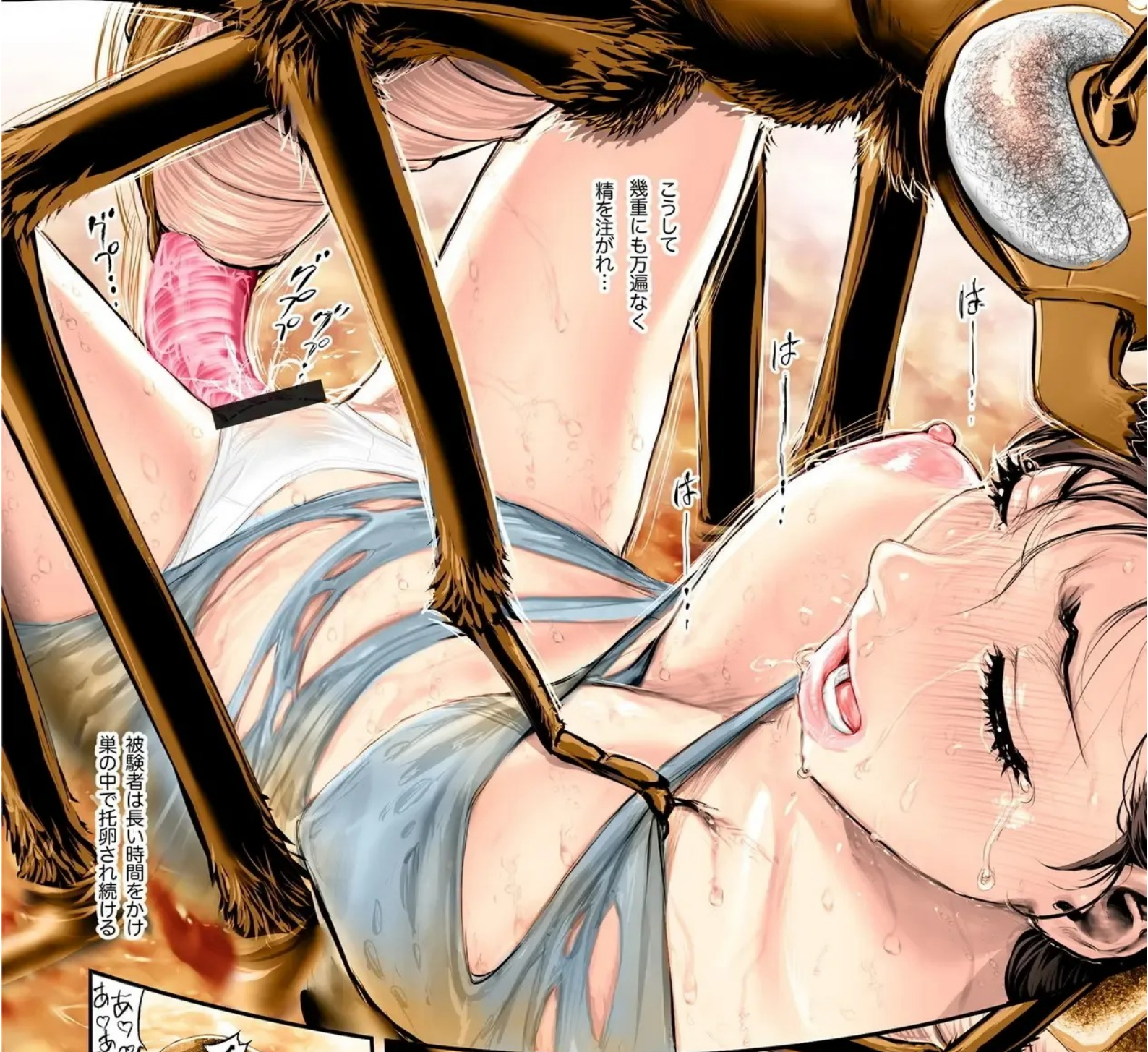
ふおおーっ♡♡♡♡♡

挿入管は

子宮内で
卵の群れに

直接精子を
浴びせてゆく





こうして
幾重にも万遍なく
精を注がれ…

は…

は

は

ぐも…

ぐも
ぐも
ぐも

被験者は長い時間をかけ
巢の中で托卵され続ける



あ♡あ♡
あ♡あ♡

ふあ♡
ぐや♡

最も…

この繁殖活動が
行われるのは
夜の間だけ
ではあるが



あ♡
ぐや♡

ぐや♡
ぐや♡

あ♡
ぐや♡

ぐや♡
ぐや♡

陽が昇ると共に
彼らは巣を離れ
新たな触媒を求め

偏西風に乗って
侵略範囲を広げる
旅に出てゆく

残された被験者は
巣の中で少しずつ

彼らの仔を
孵化させてゆく

その光景は
あたかも…

家畜化された
培養施設の
ようである

体形は
大きく歪み

中で孵化した
幼体は徐々に

胎盤から剥かれ
子宮から産道へ
移動する

その間も被験者は
蜜液の快楽物質に
溺れ続け…

歓喜のまま
出産を迎える

だが果たして
我々人間は
それを

出産と呼ぶか
侵食と呼ぶか

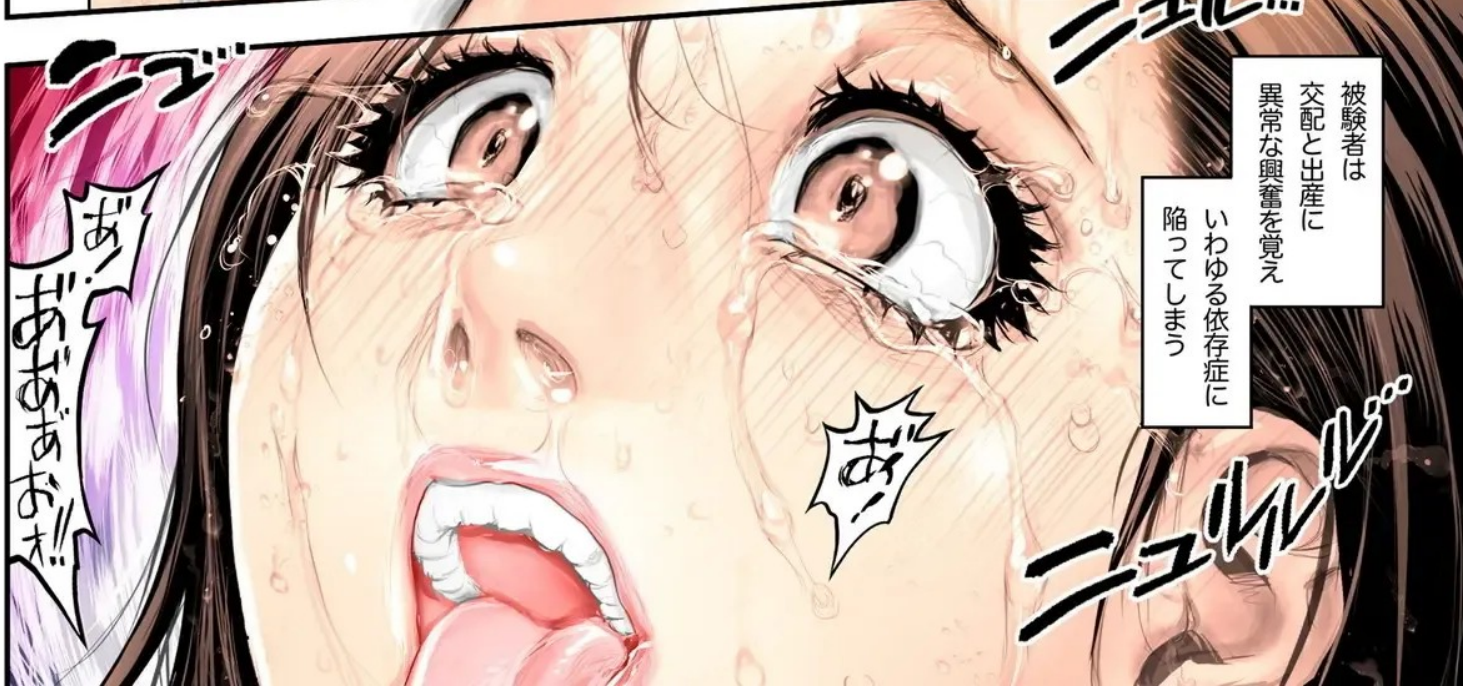


当然これも痛覚を
快楽に塗り替えた
ハニートラップだ

この効果で



破水が起きると
絶頂感が増す



被験者は
交配と出産に
異常な興奮を覚え
いわゆる依存症に
陥ってしまう

産道を通る
幼体の滑りにも
快楽を覚え：

フルフル...
ヌル
イタタタ...

イヤヤ...も!!
いぎだぐな...!!!

あーっ!!

興奮は止めどもなく
肥大化してゆく...

モリモリ

モリッ...

おっ...
おっ...
おっ...



そして
ついに
被験者は

グワッ

バババ

グワッ

グワッ

グワッ

グワッ

グワッ

!!

彼らの幼体を
外へと放出
するのだが

その頃には

グワッ

グワッ

グワッ

グワッ

グワッ

グワッ



も…
もっと…

もっと…
ほしい…

喰い荒らされ
続ける事で

……

幼体を産んでからも
持続する強制的な
快樂物質の攻撃から

逃れられず



胎盤も内側から
激しく腐敗

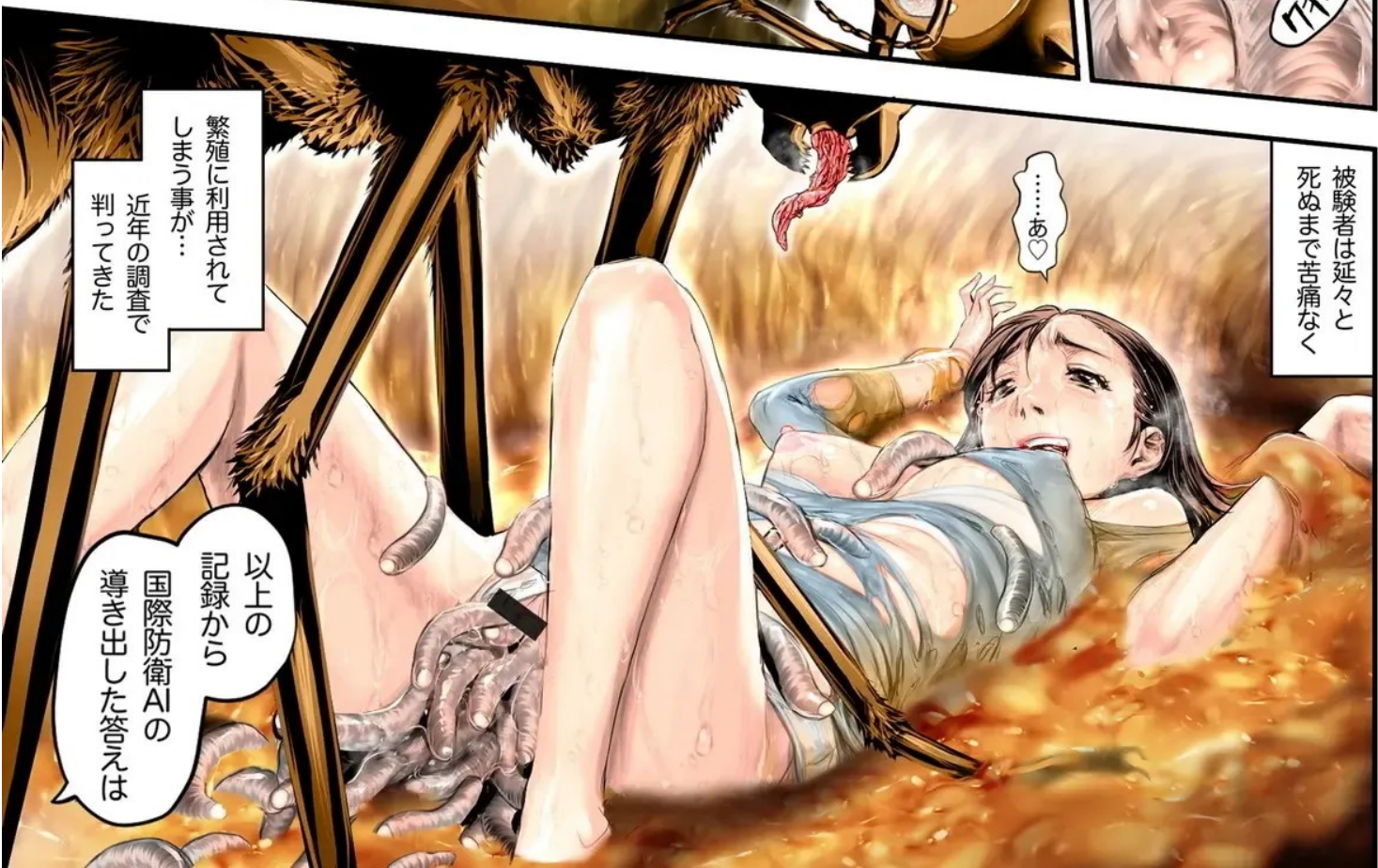
……ああ

ああ

侵食されており

「ムムムム…」

「ハハハ」



被験者は延々と
死ぬまで苦痛なく

……あ♡

繁殖に利用されて
しまう事が…

近年の調査で
判ってきた

以上の
記録から

国際防衛AIの
導き出した答えは



民間人の
救出を諦め
防衛に回すも

.....

国防の弾数に
限りがあり
お手上げ状態



人口増加率の
要である女性を
5割近く奪われ

それでもなお
現状から人口が
回復するまでの
予想年数は
245年とまで
試算された



次の奇襲に
失敗した場合の
人類生存率は-35%



世界は今
一丸となって戦うには
あまりにつまらぬ抗争で
疲弊しすぎた

もう終わりだ

人類はいずれにせよ
滅びゆく運命だった
のかもしれない

君らの意見を
聞かせてくれ...

教授...

END



Fin

ГЕИП